

学び ふれあい 伸びゆく芙蓉

佐賀市立小中一貫校芙蓉校 校長 牟田 禎一

■ はじめに

本校は、佐賀市の東部に位置し、全校児童生徒数は128名（小学部：80名、中学部：48名）である。学校目標を「学び ふれあい 伸びゆく芙蓉」とし、9年間の学びやふれあいをつなぐ実践を行っている。また本校がある蓮池町は、佐賀鍋島藩の支藩「蓮池藩」として栄え、歴史と文化にあふれた町である。

■ 校名の由来と大きな期待

創立100周年記念誌には以下のように記されている。「芙蓉の名がついたのは、明治15年のことである。芙蓉は蓮の異名である。土地の地名が蓮池なるがゆえに芙蓉の文字を当てたと思う。我等が日本一の名山と誇る富士山も芙蓉峰の別名を以て呼ばれている。霊峰と名を共にしている我が校なればこそ、早くより各界に多数の人材を送っている。伝統と誇りをもって、ここに学ぶ者すべての大成を祈念して止まない。」責任の重さをひしひしと感ずる言葉である。

■ 自主的な学び

長期休業中はサマースクール、ウィンタースクールを実施している。夏休みは、小学部は1週間程度、中学部は25日間程度学校で学習している。特に中学部は、午前中に部活動をして、午後を勉強の時間に充てているので終日学校で生活していることになる。時には卒業した生徒も勉強に来ることがある。自主的な学習が基本であるが、つまずきのある子どもには、教師もアドバイスをを行い、学力向上に努めている。

■ 出会いの一礼、感謝の一礼

子どもたちは登校の時に、「出会いの一礼」をして校門を通る。「今日もよろしくお願ひします。」という意味で、そこには生徒会役員や、時には育友会や子どもお守り隊の方々もおられ、子どもたちは元気に挨拶を交わす。同様に帰る時には、「今日も1日ありがとうございました。」という意味で「感謝の一礼」をしてこの門を通る。子どもたちは毎朝校門での「出会いの一礼」で気持ちよく1日をス

スタートし、帰りは笑顔で「感謝の一礼」をして下校する。



■夢を語る

中学部では、学期の終わりに「語る会」を実施している。その学期を振り返り、次の学期への目標を語るもので、体育館で全員が1つの輪になって1人ずつ全員の前で発表するものである。同様に小学部では学部集会の時に、反省や目標を1人ずつ発表している。

また、小学部4年生では1/2成人式、中学部2年生では立志式を行う。これまでの成長を振り返り、自分の目標や保護者への感謝の気持ちを伝えるものである。特に立志式には来賓も参列され、厳かな雰囲気の中で行われる。この式で生徒も自分の夢や目標を達成するために、気持ちを新たにす。

■地域とのつながり

小学部5年生では、総合的な学習の時間に大豆や稲の栽培を行う。地域の方々の協力を得て、収穫した大豆を使って豆腐や味噌を作る。米も田植えから収穫まで行う。平成26

年度は、児童が栽培した稲のわらを使って、本町に伝わる「鼓の胴の松飾り」を保存会の方々作っていただき、佐賀城本丸歴史館や本校校門に飾っていただいた。



中学部では芋茶がい（米と芋をお茶で炊いたおかゆ）会がある。芋茶がいは、今から200年程前、雲仙岳噴火の時に蓮池藩が島原藩を助けに行った際に、島原にあった芋と蓮池藩の持ってきた米をお茶で炊いて島原の人々を助けたという話に由来するものである。毎年3学期に受験を迎える3年生を励ますという意味をこめて保護者の協力を得て実施している。

■終わりに

本校の校訓は「蘊真（うんしん）」である。これは蓮池藩の藩校「成章館」の教えで「学びを積み重ねよ。勉学と鍛錬を怠るな。」というものである。この言葉を胸に刻み、21世紀に活躍する児童生徒の育成に努めていきたい。